

# 磐城時報

第六十 日刊  
編輯 石城郡平町新渡戸十四  
印刷 石城郡平町新渡戸十四  
發行 石城郡平町新渡戸十五  
一部金貳圓一月金拾圓  
廣告料一日四角一月金拾圓  
日刊（日曜）休刊

## 南町裏川岸道路を 二間幅に擴張

### 先づ工費九千圓で 二百八間の工事に着手

平町では長橋町から新川町に至る南町裏川岸の小道を二間幅の道路とする計画をたて、ついで第一回工事として材木町権淨寺前から新川町に至る延長二百八間の擴張を行ふ事となり工費九千圓で近く着手する事になった。

## 小名校増築

### 四年度に繰上げ

石城郡小名濱町小學校は狹隘のため本年に二教室更に五年度には六教室の増築をなさねばならぬためこれを全部四年度に繰上げしとの輿論があるため十五日午後一時から町會協議會を開き決定をなしたが該工費は一萬三千圓の見込みである。

## 佐賢卒業式

### 磐城佐賢 學舎卒業式は十八日午前二時舉行の筈で卒業生左の如し。

▲本科 遠藤晋、江尻光政、箱崎信一、富岡武男、千葉美男、小宅幸太郎、折笠彌之、小野昌元、小島安左衛門、和田保長、和田勉、金澤美登、片寄正、吉田剛也、高橋兵吉、丹野富士男、植本傳衛、永山房信、梅津貞男、野口喜平、能登道榮、草野正彦、松崎幸男

## 縣稅の滞納者は 全部財産差押へ

### 石城の滞納額一萬九千圓

石城郡に於ける縣稅雜種稅、營業の差押へをなし近く競賣に附業稅、家屋稅、地租附加稅の昭する事になった。

## 平軍人役員會

### 本日尼子亭で

平町在郷軍人分會役員會は十六日午後一時より尼子亭に開き十日の總會に役員一任となつた評等副員の熱辯あり、午前十時半に對し、日用品等を無料配布する事と。

十名の希望者あるも結局十五名となる模様である。  
▲食肉業協議會 平警署管内食肉業者の協議會は十六日平警署樓上に開いた。

## 平信用組合 總代當選者

平町信用組合總代人の選舉は十五日執行したが當選者左の如し  
▲第一區會川卯三郎、瀧澤俊藏▲第二區三森虎雄、山田忠太郎▲第三區三森虎雄、山田忠太郎▲第四區諸橋國松、星野清吉▲第五區尾形治右衛門、青木秀次▲第六區永島庄次郎、諸根正一▲第七區鈴木重助、藤田榮助、緑川喜三郎▲第八區吉田利吉

## 新渡戸博士の講演

### 會衆千余名で盛況

石城郡第三方面青年團總會は造氏の「吾等同邦の反省すべき十六日午前九時半から平町新渡戸に開き會衆千余名の盛況を極めた。

## 石城産組部會

### 廿七八日頃總會

石城郡産業組合部會では二十七日頃頃總會を開き二年度決算、四年度豫算案を附議終つて成績良好なる組合及組合功勞者二三の表彰を行ふ筈。

## 日用品配布

平町矯風會では十七日午前十時から平町三丁目角に於て通行人に對し、日用品等を無料配布する事と。

## 小名濱港内に 大棧橋を架設

### 工費八千圓で着手

石城郡小名濱町小名濱漁業組合は昨年風の風水害のため船付場が流砂のために埋つたり大型漁船の船付が不能となつたのでその後同組合では浚砂機を据付けて浚砂作業中であつたがその結果はあまり良好でなかつたため船付場から陸上まで卅間の間を十間の大棧橋を架設することになり十五日着手したが工費は八千圓の豫定竣工は今月末になる見込である。

## 藝妓演藝大會

### 入場料各等七十錢均一

平町於聚樂館  
來る四月六日午後六時より  
主催 磐城新聞社  
後援 磐城新聞社  
常磐毎日新聞社

### 「椿姫に就て」

鈴木一華  
絶世の佳人「椿姫」と呼ばれし一代の佳人「椿姫」と呼ばれし日記を買取つたのは誰であらう誤解のためには彼女の臨終にも間にはあつた椿姫の愛人アルマンであつた。

巡る人々は多かつたが、肺を病んだ彼女は一人も無かつた。その頃彼女の家に向ひあつて住む純情の若人アルマンは、彼女に人知れぬ戀を抱いて二人を相違はしめられた。身も心も二人に魅せられた。身も心も二人に魅せられた。身も心も二人に魅せられた。

